

連合農学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など） 赤字は記入例	根拠資料 赤字は記入例	連合農学研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	・岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻を設置した。また、募集定員を生物生産科学専攻7人、生物環境科学専攻5人、生物資源科学専攻6人、国際連携食品科学技術専攻2人に変更した。 ・平成30年度入学者は4月入学21名、10月入学11名であった。	資料1「岐阜大学大学院学則（一部抜粋）」 資料2「2020年学生募集要項（一部抜粋）」	
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	・中間発表を半年毎に実施することにより学生の研究の進捗状況を確認するとともに、修了時には公開論文発表会を行い、学習（研究）成果の評価を行った。また、学生間の学習成果の交流となり、学生自身が能力を自己点検し、学習成果を確認できた。 ・平成30年には9名の学生が研究成果を『Reviews in Agricultural Science』に投稿することができ、学習成果の把握ができた。	資料3「30年度シラバス（一部抜粋）」 資料4「Reviews in Agricultural Science」	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	・平成30年度修了生25名に対し、修了生アンケートを実施し、その結果を代議員会にて、分析・評価した結果、本研究科の教育方法・指導体制等現状に満足していることが確認できた。 ・国際シンポジウム（実施日：平成30年10月17日（水）・18日（木））で修了生が研究成果を発表し、修了生の現状及び将来の研究の方向性を確認することができた。	資料5「平成30年度修了生アンケート集計表」	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	・修了生が南部アジア地域の協定大学に教員として戻り、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム（＝IC-GU12）のリエゾンとして、10月16日（火）開催の「The 6th UGSAS-GU Roundtable」に参加し、ダブルディグリープログラムやラボステーション、サンドイッチプログラム、国際ワークショップ等の本研究科の運営について意見交換を行った。 ・東海地区の生命科学・環境科学関係の企業にて形成する教育コンソーシアム後援会インダストリー部会第17回会議を2月28日（水）に開催し、平成30年度における本研究科の活動について外部評価を行った。 ・4月12日（木）静岡大学・18日（水）岐阜大学にて教員FDを開催し、研究科の活動について教員の理解を深めた。また、教員からの質疑応答及び要望を聴取し、今後の本研究科運営について代議員会にて協議を行った。	資料6「The 6th UGSAS-GU Roundtable 2018」 資料7「第17回教育コンソーシアム後援会インダストリー部会 議事録（案）及び平成30年岐阜大学大学院連合農学研究科の活動についての外部評価結果」 資料8「H31連合農学研究科FD資料」	



平成30年度 連合農学研究科の取り組みについて

H31.6.28

IC-GU12 (9カ国20大学加盟)

ダッカ大学・バングラデシュ農業大学(バングラデシュ)、広西大学(中国)、アッサム大学・インド工科大学グワハティ校(インド)、
アンダラス大学・ボゴール農科大学・ガジャマダ大学・スプラス・マレット大学・ランボン大学・バンドン工科大学(インドネシア)、
チュラロンコン大学・カセサート大学・モンクット王トンプリ工科大学(タイ)、ハノイ工科大学・チュイロイ大学(ベトナム)
ラオス国立大学(ラオス)、マリアノ・マルコス州立大学(フィリピン)+岐阜大学・静岡大学(日本) 下線は新規加盟

**全国6連合農学
取組 研究科協議会**
・全国連合農学研究科による連携

南部アジア農学系博士課程
教育連携コンソーシアム

取組 IC-GU12

- ・留学生の派遣
- ・修了生の教員登用(リエゾンが客員教員)
- ・ラボステーションの設置(6大学)
- ・国際ワークショップの開催(12/3ランボン大学)
- ・ダブルディグリープログラム(9大学締結)
- ・ジョイントディグリープログラム(IITG)
- ・ICCC共催(11/27・28スプラス・マレット大学)
- ・海外インターンシップ受入
(チュラロンコン大学1名)
- ・海外連携機関(GGF社)

連合農学研究科 UGSAS-GU

- 取組**
- ・国費優先配置プログラムによる受入
 - ・英語特別プログラム
 - ・サンドイッチプログラム(JASSO支援)
 - ・ラウンドテーブルの開催
 - ・教員招聘/派遣
 - ・研究インターンシップ支援
 - ・修了生ネットワーク形成
 - ・『Reviews in Agricultural Science』の管理
 - ・論博支援プログラム(海外協定校等)

教育コンソーシアム後援会

取組 インダストリー部会

- ・学生懇談会(就職活動)
- ・国内インターンシップ受入
- ・外部評価
- ・就職コードにネーターに登用(客員教員)

インダストリー部会

(東海地区の生命科学・環境科学関係の企業9社)
天野エンザイム株式会社、アビ株式会社、
一丸ファルコス株式会社、株式会社岐阜セラック製造所、
株式会社サラダコスモ、株式会社三祐コンサルタンツ、
株式会社ユニオン、太陽化学株式会社、
若鈴コンサルタンツ株式会社 下線は新規加盟

公設機関との連携

- ・連携大学院方式
産業技術総合研究所、農業食品産業技術総合研究機構、
森林総合研究所
- ・連携支援方式
静岡県農林技術研究所、高エネルギー加速研究機構

取組 公設機関との連携

- 連携大学院方式
- ・主・副指導教員に任命(客員教員付与)
 - ・国内インターンシップ受入(産総研2名)
 - ・修了生のポスドク受入(産総研1名)
- 連携支援方式
- ・連携支援教員として指導

修士課程との連携

- 取組**
- 自然科学技術研究科(岐阜大学)
総合科学技術研究科(静岡大学)
- ・国費優先配置プログラムによる受入
 - ・科目等履修生(JASSO支援)